

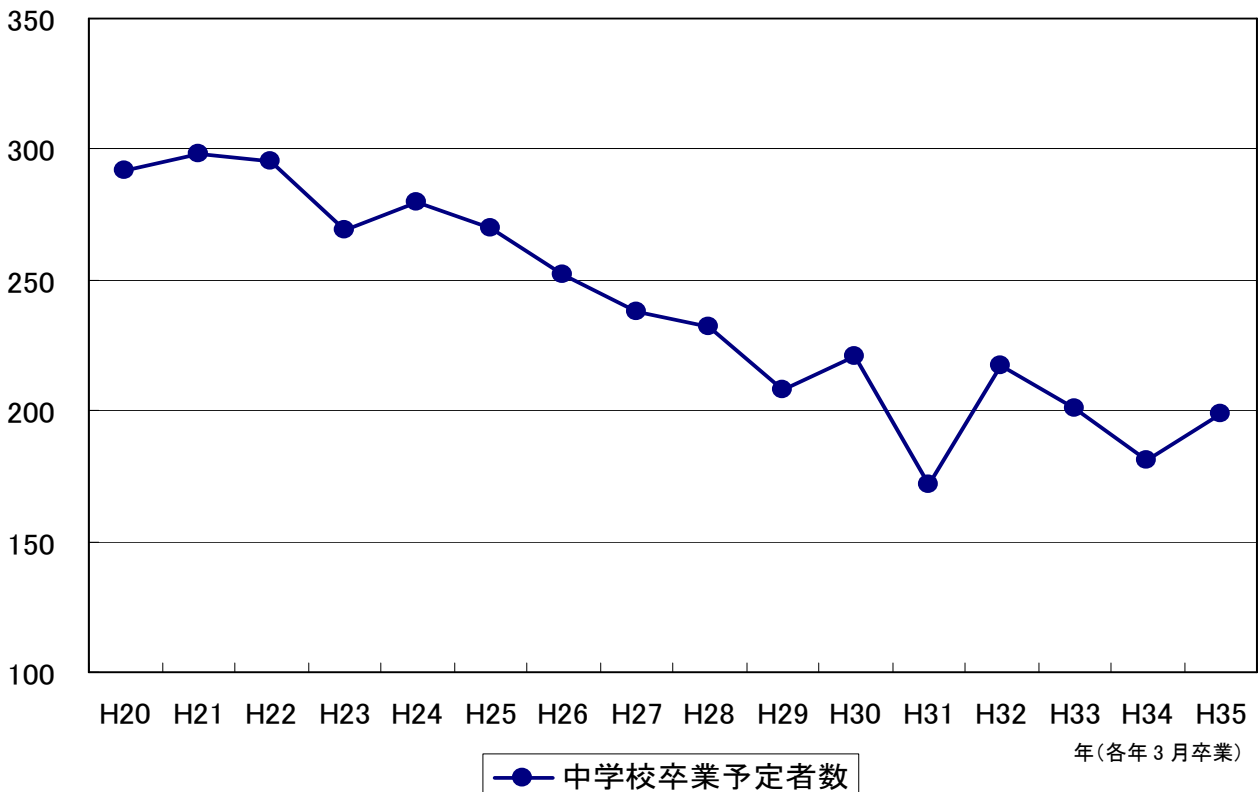
小豆地域

○今後の小豆地域の中学校卒業予定者数等の推移（見込み）

(単位:人、%)

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35
卒業生数	292	298	295	269	280	270	252	238	232	208	221	172	217	201	181	199
率	① 100.0	102.1	101.0	92.1	95.9	92.5	86.3	81.5	79.5	71.2	75.7	58.9	74.3	68.8	62.0	68.2
計(20定員×①)	② 245	252	248	226	235	227	211	200	195	175	185	144	182	169	152	167

※平成35年度までは、現在の0～5歳児数、小中学校生徒数から推計
 ※各年度の定員は、平成20年度の定員及び比率を前提としている。
 ※社会増減は考慮していない。



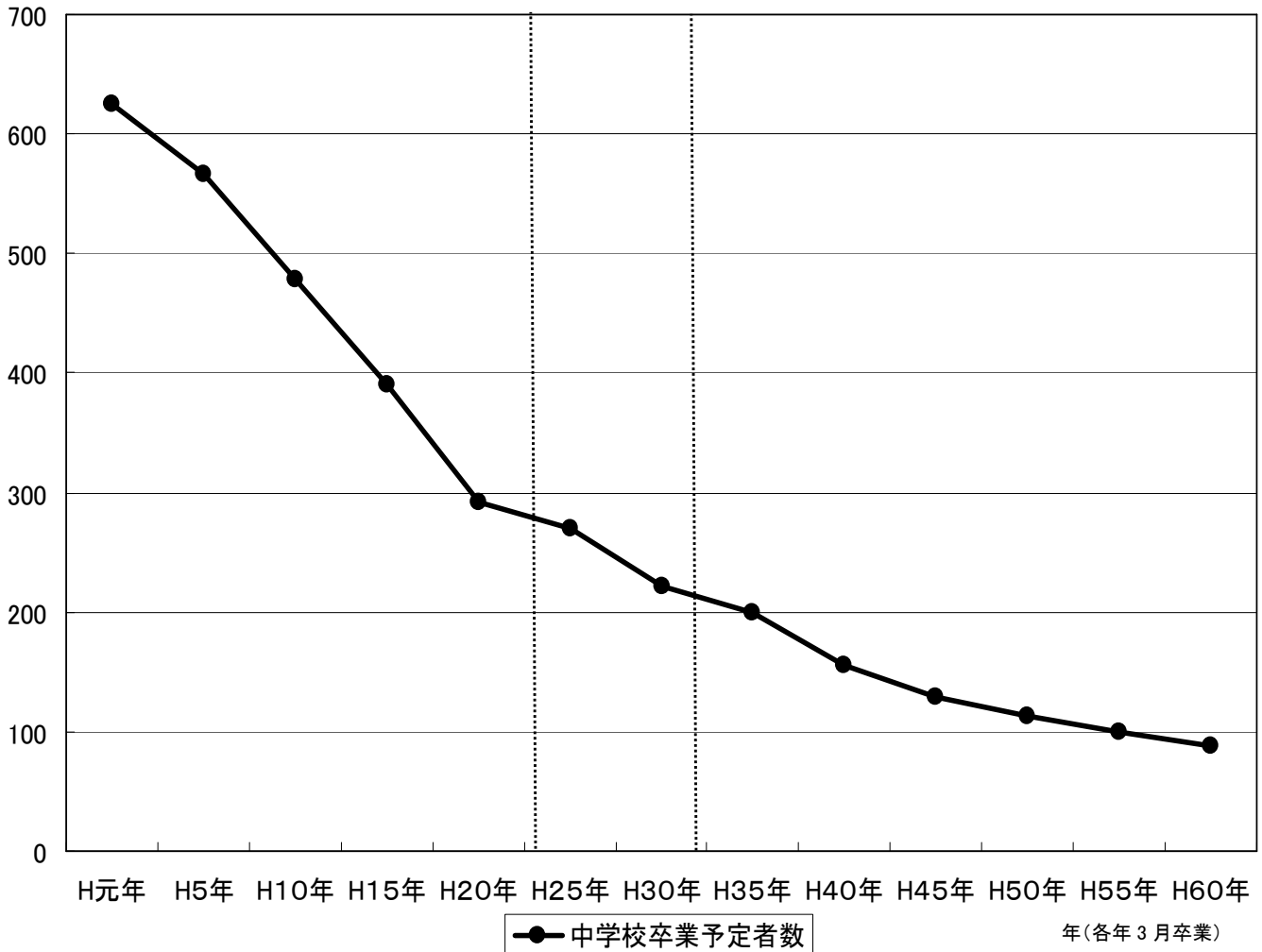
○平成31年度の姿（現状維持した場合のイメージ）

	学年	H20	H31	H35
小豆地域計 ①	1	244	144	167
	2	281	185	152
	3	262	175	169
	計	787	504	488
(1校平均) ①/2	1	122	72	84
	2	141	93	76
	3	131	88	84
	計	394	253	244

H20.5.1現在在籍者数

※本校：収容定員≥240人（公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律）

○将来の小豆地域の中学校卒業予定者数の推移（平成元年～60年）



※平成35年までは、現在の0～5歳児数、小中学校生徒数から推計

※平成40年～平成60年は、国立社会保障・人口問題研究所の市区町村将来人口推計より算定

(H20.12.1 現在数)

○平成40～60年度の小豆地域の県立高校の姿（生徒数推移から算出）

小豆地域	平成21年度		⇒	平成40年度		平成50年度		平成60年度	
	定員	252 人		定員	156 人	定員	113 人	定員	88 人
	学級数	8 学級		学級数	5.0 学級	学級数	3.6 学級	学級数	2.8 学級
	学校数	2 校		学校数	1.2 校	学校数	0.9 校	学校数	0.7 校

※平成21年度の定員及び比率を基準に算出（平均31.5人／1学級、平均1学年4.0学級／1学校）

(参考)

県立高校の学校・学科の在り方検討会議報告書（平成20年9月9日）

(小豆地域における高校の在り方から抜粋)

(1) 課題

- ①今後、生徒数が急激に減少し、2校がともに小規模化することにより、学習や部活動などにおいて、十分な教育環境を提供することが難しくなることも考えられる。
- ②それに伴い、島外の高校を希望する生徒が増え、生徒数の減少に拍車がかかる可能性もある。
- ③島内の公共交通機関がバスだけであり、通学の不便さが指摘されている。

(2) 対応

- ①生徒が地域の学校に魅力を感じ、地域内で十分な高校教育を受けられる教育環境を提供することが必要ではないか。
- ②島外の生徒にも魅力ある学校づくりを推進することが必要ではないか。
- ③生徒の多様なニーズに地域内で対応するため、総合学科に改編することが考えられるが、多様な選択科目を開設するには、一定の学校規模が必要となる。
- ④地域産業や地元の公的試験機関など地域との連携をいっそう強化し、地域を支える人材を育成することが必要ではないか。
- ⑤生徒が急激に減少する中で、学校の機能低下を防ぐとともに、①～④の対応を実現するためには、学校の規模を確保し、活力ある教育環境を整えていくことが必要であるとの意見がある一方で、通学の便の観点から、できるだけ現在の学校配置を維持していくことが望ましいとの意見や、小規模であっても工夫することできめ細かで充実した教育が行えるのではないかと意見、地域の高校間の連携を強めることにより、再編への機運づくりをすることが必要であるとの意見があった。
- ⑥これらの意見を踏まえ、特に通学の便に配慮しながら、具体的な対応方法やその実施時期について、検討を進めることが必要ではないか。